

第45号 高石市青少年健全育成



高石市青少年健全育成推進会会長
高石市長 畑中 政昭

平素より、本市行政の各般にわたり、格別のご高配を賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、こども達は、地域の未来を担うかけがえのない存在です。一人ひとりが夢や希望を持ち、自分らしく成長していくことができ、社会をつくることは、私たち大人に課せられた大切な責務であります。

近年、社会環境は大きく変化し、こども達を取り巻く状況も多様化しています。インターネットやSNSの普及により、便利で豊かな情報に触れる機会が広がる一方で、トラブルや誹謗中傷、いじめなど、新たな課題も生まれています。また、家庭環境や地域とのつながりの希薄化などにより、こども達が孤立を感じやすい状況も指摘されています。

そのような中、地域の皆さまによる見守り活動や、各団体様の活動、非行防止や安全啓発の取り組み、また、こども達が安心して集い、学び、交流できる場づくりなど、日々の地道な活動が、こども

達の健やかな成長を支える大きな力となっています。これらの取り組みは、まさに地域全体でこどもを育てる高石市の姿であり、誇るべき財産であると感じております。

このような時代だからこそ、学校・家庭・地域が連携し、こども達を温かく見守り、支えていくことが、これまで以上に重要になっていきます。

こども達は、大人の姿をよく見えています。私たちが互いを思いやり、支え合いながら地域で暮らす姿は、こども達にとって何よりの学びとなります。失敗してもやり直すことができること、自分の意見を大切にしながら他者を尊重すること、そして困ったときには助けを求めてよいということ、日々の関わりの中で伝えていくことが大切です。

本市では今後も、こども達の声に耳を傾けながら、誰一人取り残されることのない環境づくりを進め、安心して子育てができるまち、こども達が夢を描けるまちの実現を目指してまいります。

こども達の笑顔があふれる未来のために青少年の健全育成に向けた取り組みを、今後とも、推進してまいりますので、何卒、温かいご理解、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

高石市青少年健全育成

推進会とは

昭和50年代、全国的に教育現場での暴力が問題化していました。高石市も例外ではなく、昭和55年、級友らに暴力をふるわれ、お金を脅しとられた中学生が自らその命を絶ちました。また同年、中学生が教師や生徒に乱暴し、傷害、暴行の疑いで逮捕されるという非常に痛ましい事件が相次いで起こりました。

続発する校内暴力に対抗するため、市や教育委員会をはじめ、こども会、PTAなどの各団体が結集し、翌56年、学校、家庭、地域が一体となって青少年非行を防止し、健全に育成する高石市青少年健全育成推進会が設立されました。

昭和61年には、非行やいじめのない社会を築くため、こどもたち自身がめざす目標として、また家庭、学校、地域が一層緊密に連携し取り組むべき指針として「高石っ子憲章」を制定しました。

同会では、毎年研修会や市民大会を開催しています。また、小中学校の児童・生徒が自身の学校生活をよりよくするため意見交換し交流を深める「わたしたちの生活を話し合う会」も行われています。

高石っ子憲章

高石市青少年健全育成推進会
昭和61年7月15日制定

わたしたちは、高石っ子が自ら豊かな社会をつくり出し、たくましく生き抜く人間に成長することを願っています。

そのため、家庭・学校・地域の協力のもと、自由と平和を愛し、正義と秩序を重んじ、たがいに尊重しあう民主的な人間に育つことをめざして、この憲章を制定します。

- 1. 高石っ子は、ひとりひとりかけがえのない人として、たがいの人権を尊重する人間になりましょう。
- 1. 高石っ子は、自ら学び、考え、判断し、豊かな創造力とひろい心をもった人間になりましょう。
- 1. 高石っ子は、自然や人間のいとなみに感動し、生きることに感謝し思いやりのある人間になりましょう。
- 1. 高石っ子は、いかなる困難にも立ち向かう意志の強い人間になりましょう。
- 1. 高石っ子は、家族のふれあいを大切にし、家族の一員としてよりよい家庭を築きあげる人間になりましょう。
- 1. 高石っ子は、あらゆる活動の場を通して、豊かな体験を積み、心身共に健康な人間になりましょう。
- 1. 高石っ子は、人や郷土・地域を愛し、社会に役立つ人間になりましょう。
- 1. 高石っ子は、歴史と文化を大切にし、国際感覚を身につけた人間になりましょう。

私たちの生活を話し合う会

～わたしたちの学校園生活をより楽しくするために～

今年度のテーマ「いじめのない学校をつくるために」

毎年、小学校・中学校が連携して開催されています。今年度で41回を迎え、令和7年12月23日（火）に高石市役所多目的ホールで開催されました。高石市立の小中学校から児童生徒の代表が集まり、各学校のいじめを許さない取組についての発表、交流を行いました。以下は、各学校の発表の概要です。

加茂小学校の取組み

「あいする加茂小」（あいさつをする、いじめをなくす、すごくきれいにする、るんるん登校できる）を合言葉に、「あいさつ運動」や「あいする加茂小コンクール」を実施しました。また、「にしいろ時間」や「大縄朝礼」では、6年生が中心となって、異学年の交流を行い、様々な場面で、他の学年同士で話しかけることが増え、あいさつする場面もたくさん見られるようになりました。



▲あいさつ運動



▲大縄朝会

取石小学校の取組み

「7色フレンド～学校が安心できる場所になるように～」
7色の一つひとつに、元気、笑顔、あいさつ、協力、仲良く、平等、いじめはダメという意味があります。学校が、安心して楽しく過ごせる場所になるようにという願いをこめて考えました。

いじめ防止の活動として「やさしさポスト」「ポジティブな言葉の掲示」「アドジャン」の3つの取組みを行いました。『言葉を大切に』を合言葉に、言葉ってパワーをもっていると思いませんか？たったひとりで、元気になれたり笑顔になったりしますよね！プラスの言葉がたくさん取石小学校にしていきたいと思いますという提案をしました。「やさしさポスト」には、言ってもらって嬉しかった言葉や、してもらって嬉しかった出来事を星型の紙に書いて入れてもらって、みんなに見てもらえるように掲示しました。すてきなエピソードが、たくさん集まりました。



▲7色フレンド



▲やさしさポスト

東羽衣小学校の取組み

いじめのない学校をつくるために、本校児童会では学校目標の「あかるく・おもいやりふかく・ねばりよく」をもとに様々な活動に取り組みました。1学期は「あかるく」を達成するための目標をクラスで考え取組み、2学期は「おもいやりふかく」を達成するための目標を考え取組みを行いました。

また、いじめをなくすためには「しない、させない、ゆるさない」の3つの「ない」を宣言する『いじめ3ない宣言』を行いました。その際、全校朝会で児童会役員より「いじめがなぜだめなのか、いじめをするとどんなことが起こるのか、児童会として学校のみんなにどのように過ごしてほしいのか」を伝えました。このように、今年度はどの活動においても、自分たちで考えて、自分たちの言葉で伝えることを意識して取り組みました。

いじめとは

いじめとは、その人に関心(仲良くなりたい・注目している・注意を払っている)があつたり、苦手に思っていたりするとしてしまうもので、自分がいじめをしていると気づいている場合と、気づいていない場合がある。気づかずにしている行動、言葉がいじめになるかもしれない。だから、されている人でもしている人でもない、気づいている人が止めに入り、怖くても助けてあげてほしい。



児童が作った朝会用資料

羽衣小学校の取組み

「一人ひとりの太陽でみんなを照らそう～いじめNO宣言～」

今年度も、いじめについて話し合う機会をとりました。『一人ひとりの太陽でみんなを照らそう～いじめNO宣言～』と題して、代表委員でいじめについての読み聞かせの動画を作り、クラスルームで配信しました。

各クラスで読み聞かせを聞いた後、いじめをなくすために自分にできることはどんなことかについて話し合い、お互いの考えを深め合いました。自分がかんばろうと思うことを『いじめNO宣言』に書いてもらいました。それらを集めて、一人ひとりの思いが太陽のようにみんなを明るく照らすことを願いながら紙に貼り付け、1階玄関に掲示をしました。



▲やさしさの花

高陽小学校の取組み

学校目標を「ENJOY 切りかえ 全集中」として、主に1学期は切りかえ、2学期は学校生活を楽しむ、3学期は全集中で何事にも全力で取り組む活動をしてきました。

その中で、「いじめのない学校をつくるために」に、①いじめ防止動画の製作②朝学習の時間に、代表委員が各クラスに行き、全クラスで動画を視聴③アンケートの実施を行いました。台本から動画編集まで、全て代表委員が制作したため、高陽小学校のリアルな課題に迫ることができました。

アンケートでは、「困っている人がいたときに、力になってあげたい。」「いじめをなくしたい。」「人の気持ちをもっと考えられるようになりたい。」などの回答が多くあり、学校全体で『いじめはダメ』という意識が強まった様子が見られました。



▲いじめ防止動画

清高小学校の取組み

児童会では、どんな学校にしたいかをみんなで考え、スローガンを決めました。それは、「キラキラふわふわ清高小学校」です。そして、そのスローガンを達成するために、具体的に取り組む8つの目標も考えました。それは、「ポジティブな声かけをする」「あいさつをする」「そうじをキレイにする」「やさしくする」「早寝早起き朝ごはん」「学校のきまりを守る」「最後まで話を聞こう」「一生懸命する」の8つです。それらの目標に向かって、具体的な取組みとして、「あいさつ運動」や「スーパークリーン調査隊」、「キラキラふわふわ言葉集め」を実施しました。これらの取組みから、みんなで協力して、明るく元気な清高小学校を作っていきたいと思えます。

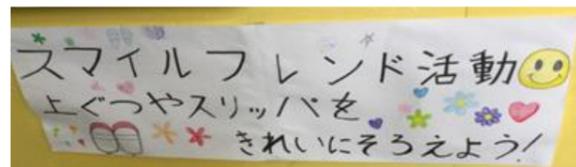


▲スローガンと具体的に
取り組む8つの目標

高石小学校の取組み

『ハッピー2525高小～みんな仲良く幸せな学校をめざして～』

上記の学校目標を達成するために、あいさつ運動・子どもまつり・ペア学級活動・スマイルフレンド活動などを行いました。



▲高小スマイルフレンド活動

スマイルフレンド活動では、全校児童で『上ぐつやスリッパをきれいにそろえる』ということをしました。掲示物や声かけなど、いろいろなことを工夫して意識できるように取り組みました。取り組めた日はシールを貼り、視覚的にわかるようにもしました。



みんなで同じことに向かって取り組むことで、学校目標を達成できる。そして、上靴・靴・スリッパがきれいに並んでいることで、気持ちの良い場所と感じられます。

高石中学校の取組み

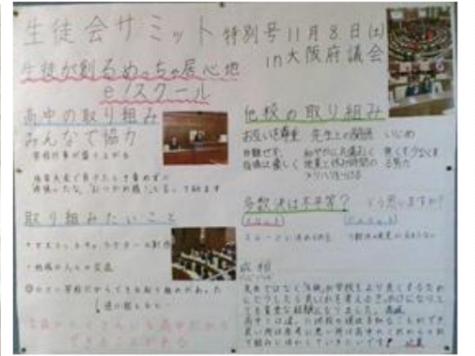
いじめをなくすために様々な取り組みを行っています。お互いに感謝を伝えるための「ありがとうカード」、元気づく学校生活を送るための「あいさつ運動」、給食の時間に放送している「生徒会ラジオ」など、年間を通してたくさんの取り組みを実施してきました。

生徒会ラジオでは、自分の好きなことやものを紹介するという新しいコーナーを作りました。このコーナーをきっかけに、校内で会話できる人が一人でも増えればと思っています。

また、今年度は生徒会サミットに参加しました。大阪府内の中学校が集まり、“いじめ”について話し合い意見を出し合いました。参加するだけでなく、内容を模造紙にまとめ掲示することで、全校生徒に共有しています。



▲ありがとうカード



▲生徒会サミット

高南中学校の取組み

高南中学校ではSDGsにちなんで、未来に向けてみんなが快適に過ごしていける学校づくりに向けて、持続可能な高南中学校の目標SKGs (Sustainable KONAN Goals)として、①他者を理解する②物を大切に③思いやりの心を④けじめのある行動を⑤ジェンダー平等を実現しよう⑥居心地の良い学校づくりの6つの項目に沿って活動を継続しています。

活動内容は、他者理解をテーマにした生徒学活の実施、昼休みのボランティア清掃、募金活動などを行いました。

また、学校生活の中で見つけた「ありがとう」という行動を投函する「ハピネスボックス」、学校で困っていることや要望を投函できる「目安箱」、そして新たに悩みを相談できる「お悩み相談ボックス」を設置しています。投函された内容に関しては、毎週金曜日のお昼の放送で生徒会が回答しています。



▲生徒たちのSKGsに向けた宣言

取石中学校の取組み

前期生徒会の生徒会目標は「Challenge - 新しい自分に - 」でした。とにかくやりたいことを全て書き出し、中でもチャレンジすることを一番の目標に色々な取り組みを考えました。最初の活動はいじめについてのアンケートを全校生徒を対象に行いました。その結果からわかったことは、いじめられた人がいじめをしてきた人に復讐をしたくなるほど傷つき、その思いを誰かにぶつけてしまっているのでは・・・と考えました。そしてどうすればいじめをなくせるかを考えた結果、何かに「challenge」している時は、やりたいことに夢中になっていて、周りを傷つけるような行動をする暇がないのではないかと考えました。生徒のみんなが何か挑戦したいことを見つけることで、いじめを減らすことができるのではないかと思います。そこで、各クラスで第1回生徒会学活を行い、取中生みんながチャレンジしやすい学級・学校について考えました。

文化活動発表会では、生徒会本部役員から提案発表を行い、最後には前期生徒会会長が、全校生徒の前で『自分がチャレンジすること』を行動宣言として行いました。

この取り組みを通して、「失敗を恐れず、挑戦できる」「挑戦している人を応援できる」取石中学校にしたいと考えました。



▲文化活動発表会

青少年健全育成推進会の主な取組

高石市青少年健全育成推進会では、次代を担う青少年たちが健やかに成長するよう、いろいろな取組を行っています。

令和7年度高石市青少年健全育成推進会事業報告

令和7年

★街頭指導

市内各小学校別に毎月1～2回実施（通年実施）
青少年健全育成の啓発推進及び愛の一声運動等を行うとともに、青少年のたまり場となりやすい場所を巡回し、非行防止と健全育成を図る。

7月

★役員会

令和6年度事業報告
令和7年度事業計画

★青少年健全育成市民大会・社会を明るくする運動

場 所：たかいし市民文化会館小ホール
参 加 者：72名
内閣総理大臣メッセージ朗読
高石市保護司会会長 中野 均
講 演：「青少年の非行の防止と健全な育成について」
講 師：大阪府警察本部少年課
係長 西納 義博氏

11月

★青少年健全育成強調月間

ポスター掲示等による広報活動

12月

★わたしたちの生活を話し合う会

テーマ：「いじめのない学校をつくるために」
参加者：市内小中学校の児童生徒代表

令和8年2月

★学校問題研修会

テーマ：「ネット上の脅威から子どもたちを守る指導を考える」
講 師：香川大学 大学院教育学部研究科
教授 金綱 知征氏

高石市青少年健全育成推進会構成団体名

(順不同)

高石市	高石市内ガールスカウト
高石市議会	高石市連合自治会
高石市教育委員会	高石市PTA連絡協議会
高石警察署	高石市社会福祉協議会
貝塚子ども家庭センター	高石市婦人団体協議会
堺少年サポートセンター	高石市母子寡婦福祉会
高石市内幼稚園	高石市少年補導員
高石市内認定こども園	高石市こども会育成協議会
高石市内小学校	高石市スポーツ少年団
高石市内中学校	高石市文化協会
高石市内高等学校	高石市体育協会
高石市内専門学校	高石商工会議所
高石防犯協会	高石ロータリークラブ
高石市保護司会	高師浜ロータリークラブ
高石市更生保護女性会	羽衣ロータリークラブ
高石市人権協会	堺・高石青年会議所
人権擁護委員	高石交通安全協会
高石市民生委員児童委員協議会	高石中学校区地域教育協議会
高石市社会教育委員	高南中学校区地域教育協議会
高石市青少年指導員協議会	取石中学校区地域教育協議会
高石市内ボーイスカウト	

学校問題研修会（講演）

日 時 令和8年2月6日（金）
場 所 高石市役所別館3階 多目的ホール
テーマ 「ネット上の脅威から子どもたちを守る指導を考える」
講 師 香川大学 大学院教育学部研究科
教授 金綱 知征氏

【ネット上の人権侵害の実態を理解する】

インターネットによるいじめの認知件数は2013年に比べて高校生ではほぼ横ばいで推移しているが、中学生では2.5倍、小学生では7倍に増加している。

SNSの利用自体が小・中学校生にとって日常に近いものになりつつあるが、SNSを通じて面識のない被疑者と知り合い、重要犯罪（殺人、強盗、不同意猥褻、略取誘拐など）に巻き込まれる子どもの割合が平成28年から10年間で6倍に増え、令和5年は前年比40%増加している。もはや小学生も例外とはみなせない程被害件数が増加しつつある。

SNSに起因する事犯では、7割以上が子どもたちからの投稿から始まっている。投稿内容は、援助交際の募集などだけでなく、プロフィールのみでも多くの子どもたちが被害を受けている。

【被害／加害に関わるネットの特性】

ネット独自の特性として、匿名性があり一般的には個人を特定できない状況ではあるが、誹謗中傷などを行った発信者を特定することは難しいことではない。

また、公共のスペースであることから、仲の良い友人だけに投稿したと思っても、世界中の不特定多数の誰からでもアクセスは可能である。

さらに同じ意見や価値観を持った人々が集まりやすく、自分たちと異なる意見や価値観に対して、許容できないため、偏った正義感により安易な誹謗中傷行為を誘発してしまうことがある。

【子どもたちを、被害者にも、加害者にも、させないために】

真実であろうがなかろうが、ネット上で名誉棄損や侮辱すれば罪に問われる。18歳未満は少年法の規定により実名報道ができないが、いわゆる炎上事案の多くは刑事事件に至らない行為であるにもかかわらずネットに投稿してしまったために個人情報などを永遠に晒され本人の人生にとって、場合によっては「犯罪」よりもはるかに残酷な結果が待っていることも少なくない。晒す側にとっても一人の人間の人生に大きく影響を及ぼすことになる。

【まとめ】

現実世界でもネット世界でも道徳/モラルに関わる問題に違いはないことを知る。

自覚のないまま加害者や被害者になってしまうかもしれないという危機感を持つ。

ネットは公共空間でありそこでの言動は常に第三者に見られていると自覚を持つ。

